

Connection: My Hometown, My Action

授業者 附属池田中学校 中田未来

1. 対象 附属池田中学校第1学年C組(36名)

2. 単元目標

・知識及び技能に関して

- 疑問詞や動詞の時制(主に現在形や過去形)の特徴やきまりを理解し、それらを活用して、日常的な話題(世界の町や学校)に関する英文の内容を聞き取ったり、読み取ったりする技能を身に付ける。
- 疑問詞や動詞の時制(主に現在形や過去形)の特徴やきまりを理解し、それらを活用して、日常的な話題(自分の町や行動)について考えたことや、感じたこと、その理由などを英語で即興で伝えあったり、話したりする技能を身に付ける。

・思考力、判断力、表現力等に関して

- 世界の町のよさや課題、課題解決のための行動について知るために、世界の町について書かれた英文を読んだり、ニュース等の音声を聞いたりして、概要を捉えることができるようにする。「読むこと」(イ)・「聞くこと」(イ)
- 自分と社会との繋がりについての理解を深めるために、自分の町のよさや課題、課題解決のための行動について、考えたことや感じたこと、その理由などを簡単な語句や文を用いて話すことができるようにする。「話すこと(発表)」(ウ)
- 即興的に話す力を高めるために、プレゼンテーションで聞いた内容について、自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いて質問したり、答えたりすることができるようにする。「話すこと(やり取り)」(イ)

・学びに向かう力、人間性等に関して

- 自分と社会との繋がりについての理解を深めるために、世界の町のよさや課題、課題解決のための行動についてどんな例があるのかを整理し、日本との文化的差異に対する理解を深め、聞き手である外国の人に配慮しながら、簡単な語句や文を用いて伝えようとしたり、相手からの質問に主体的に答えようとしたりする態度を養う。

3. 指導に当たって

(1) 単元を通して育む「グローバル市民」と学習との関連

① 選択項目「主体的な人」

これまでの経験や学んだこと、試みの視点などから目標を持ち、その達成に向けて自主的に粘り強く取り組むことができる。

② 学習との関連

本単元は、“Developing a meaningful connection with our community through thoughtful actions and careful word choice strengthens our civic responsibility.”を探究テーマとし、グローバル市民としての自分の属するコミュニティと自分自身の繋がりを捉え直し、より良いコミュニティ作りに向けて行動したことについて英語で表現し、発信をする単元である。この単元は、総合的な学習の時間との横断授業である。

本校は、IB World School 認定校であり、そのカリキュラムの一環として、Service as Action(以下、SA)を各学年の総合的な学習の時間に行っている。SAとは「この社会の一員として中学生の自分たちには

何ができるのかを自ら考え、自分たちで実行する奉仕活動」のことである。1年次は自分に関わりのある地域に対する SA として、生徒1人でできる小さな行動をする。2年、3年と学年が上がるにつれ、より広いコミュニティへの奉仕活動を行う。3年次はコミュニティプロジェクトとして約8ヶ月にわたり、数名のグループで日本や世界の抱える課題解決に向けた行動をする。

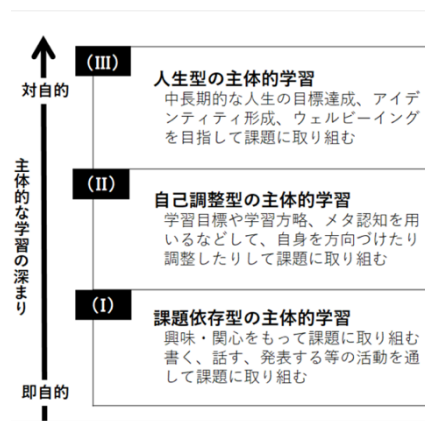
1年生ではSAの目的を「①自分に関わりのある町の良さと課題に気づく」「②6月に実施した神戸研修で学んだ探究のサイクル(調査,計画,行動,振り返り)を元に、課題解決能力の基盤を育成する」とし、7月から9月にかけて行った。総合的な学習の時間に行った SA の流れは以下の通りである。

時期	授業数	内容	探究学習の大まかな段階
7月上旬	1コマ	SA オリエンテーション	調査,計画
7月中旬	2コマ	個人探究テーマの設定 発表スライド作成についての説明 発表スライド作成	
8月下旬	1コマ	発表スライド作成 行動計画提出	
9月上旬	1コマ	中間発表(3学年縦割り) *調査,行動の計画について3~5分間 日本語でのプレゼンテーションを行う	行動
行動計画提出後 ~9月中旬	授業外	行動	
9月中旬	1コマ	中間発表振り返り 最終発表資料加筆修正	
10月初旬	2コマ	最終発表資料加筆修正	振り返り
10月18日	1コマ	最終発表(3学年縦割り) *調査,計画,行動,振り返りについて 5分間,日本語でのプレゼンテーションを 行う	
10月25日	1コマ	振り返り	

上記のように、生徒は総合的な学習の時間において日本語で、5分間のプレゼンテーションを行なっている。そこで英語科の授業では、これを海外の人や、日本に住む英語話者に届けるために、Introduction(導入),Body(本文),Conclusion(結論)の構成で英語のプレゼンテーションを行う。また、簡単なディスコースマーカーを使い、聞き手にわかりやすく話すよう工夫する。プレゼンテーションの内容について深める際に生徒は、既習の語彙や文法知識を活用しながら、「聞き手に理解しやすい」構成とはどのようなものか、またどのように話せば聞き手に伝わりやすいのかについて、教師や生徒同士のやりとりを通して考える。したがって、これまでに学んだことをもとに、目標達成に向け、自主的に粘り強く取り組む活動を目的としているため、「主体的な人」を目標とした。

また、本取組は課題依存型の主体的学習ではなく、自己調整型の主体的学習を促したい。課題依存型の主体的学習とは、「この課題に取り組むのはおもしろい」といった例に見られるように、行為者の課題への働きかけの力点が、行為者よりも課題のほうにあるような学習を指す。(溝上 2017)一方で、自己調整型の主体

的学習とは、自ら生徒自ら学習目標を設定し、学習戦略を考え、学習過程を振り返り、メタ認知的に学習することによって自己調整していく学びのことである。これを促すため生徒は、毎回の授業の最後に「本時の授業で最も大切だと思ったこと」について OPP シート^{注1)}に記入し、振り返りをする。教師は毎授業後、生徒の OPP シートの記述に対してコメントを書く。このような教師とのやりとりを通して生徒は、自分の思考に対する思考、すなわちメタ認知を高める。このような過程を通して、生徒が自己調整しながら目標の達成に向けて自主的に粘り強く取り組む姿勢を養う。



主体的学習スペクトラム (溝上 1997)

注1) OPP シート

One Page Portfolio Assessment に用いるシートのことである。これは、学習者が 1 枚のシートに学習履歴を記録することで、学びを外化し、可視化する役割を果たす。

③目標達成するために身につけるべき力

- ・振り返り、自己調整する力
- ・粘り強く取り組む中で、上手に失敗をする力

ここでの「上手に失敗する」とは間違いを恐れず、間違いを自身とクラスメイトの成長のための貴重な学びとして捉え、クラスメイトからも学ぶことを意味する。

(2)教材観

本単元では、イギリス、アメリカ、日本の日常生活や文化について読んだり聞いたりする学習を通して、自分にゆかりのある町についての事実や思いを伝え合う単元である。そこで自分の町の良い点と課題、課題解決のために自分が行動したことについてプレゼンテーションをし、その内容について簡単な質疑応答を行うことを話すこと[発表]、話すこと[やり取り]の総括的課題として設定した。

以下は、プレゼンテーションの状況を具体的に設定した GRASPS (Goal, Role, Audience, Situation, Product, Standard の頭文字をとったもの) である。

Goal (目的)	思慮深い行動と言葉の選択を通じてコミュニティとの有意義なつながりを築くことは、市民として自覚を芽生えさせることについての理解を深める
Role (役割)	中学1年生
Audience (聞き手)	世界の IB 校の中学1年生
Situation (状況)	自分に関わる町の良いところと課題、課題解決のために行動したことをプレゼンテーションし SA の内容について報告、質疑応答を行う
Product (作品)	1分間のプレゼンテーション、質疑応答
Standard (評価)	Speaking 1・2学期の評価

総括的課題であるプレゼンテーションは主に2つのパートによって構成される。1つ目は1分間のプレゼンテーションである。プレゼンテーションの目標は「日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて話すことができるようにすること」(学習指導要領「話すこと[発表]」イ)である。

学習指導要領「外国語編」の解説では、「事実や自分の考え、気持ちなどを整理する」ことについて、以下のよ

うに述べられている。

事実や自分の考え、気持ちなどを「整理」としては、話し手として伝えたい内容や順序、聞き手に分かりやすい展開や構成などを考えたり、事実と考えを分けて整理したりするなど、話す内容を大まかな流れにしてコミュニケーションの見通しを立てることを意味している。

本単元では、1分半という限られた時間で、自分の住む町について、その良い点や課題、課題解決に向けた自分の行動を海外の中学生にわかりやすく伝える必要がある。このような目的、場面、状況等に応じて、生徒は外国語によるコミュニケーションの見方・考え方を働かせ、聞き手にわかりやすい展開や構成を考え、表現する。

2つ目は、プレゼンテーション後の質疑応答である。質疑応答の目標は「日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすること（学習指導要領「話すこと〔やり取り〕」イ）に該当する。質疑応答の時間を設けることで、発表者としての話し方の工夫だけでなく、質問を考えながら聞くことで、積極的に聞く姿勢を育むことが期待される。

Eikenberry (2004) は、積極的な聞き手になるために「深く理解するための質問を行うこと」や「相手の発言を要約すること」が重要であると指摘している。そこで、本実践では「You said -.(質問)」という順序で情報を整理し、質問を行う形式を取り入れる。既存の語彙を活用し、即興的に話す力を伸ばすために、毎授業で即興的に話す活動を含め、生徒が「言いたかったが言えなかったこと」を英語でどのように表現するかを考えさせる。また、教科書本文に関する質問や要約活動を多く取り入れ、繰り返し練習を行う。

また、単元を貫く問いとして「connection(つなぐ・つなげる・つながる)とはどういうことですか」という問いを設定し、単元を通して「Connection(繋がり)」に関する概念理解を深める。

このように、単元全体を通じて「繋がり」についての概念理解を深化させ、生徒が既習の英語表現を用いながら実生活と結びつけて自分の言葉で考えを伝える力を育成する。この力を育むことは、生徒一人ひとりが地域社会や世界との関係性に気づき、グローバル市民としての自覚を芽生えさせる大切な一歩となると確信する。

(2) 生徒観

本単元では、話すこと〔発表〕〔やり取り〕に関する総括的課題を設定した。そのため、ここでは、本校生徒の話すこと〔発表〕〔やり取り〕に関しての取組み及び姿勢について述べることにする。本校1年生は9月に、GRASPSを以下のように設定し、自己紹介プレゼンテーションを行った。

Goal	目的や文脈にあった適切な言葉の選択の下、コミュニケーションをする
Role	オーストラリアに短期留学した中学1年生
Audience	オーストラリア現地校の中学1年生(日本のことはほとんど知らない)
Situation	英語の授業で自己紹介プレゼンテーションをする
Product	1分間のプレゼンテーション
Standard	Speaking 1・2学期の評価 ・自分からも質問できるかが大切 ・わからない時に黙らない ・日本の文化を知らない人にも伝わる内容にする

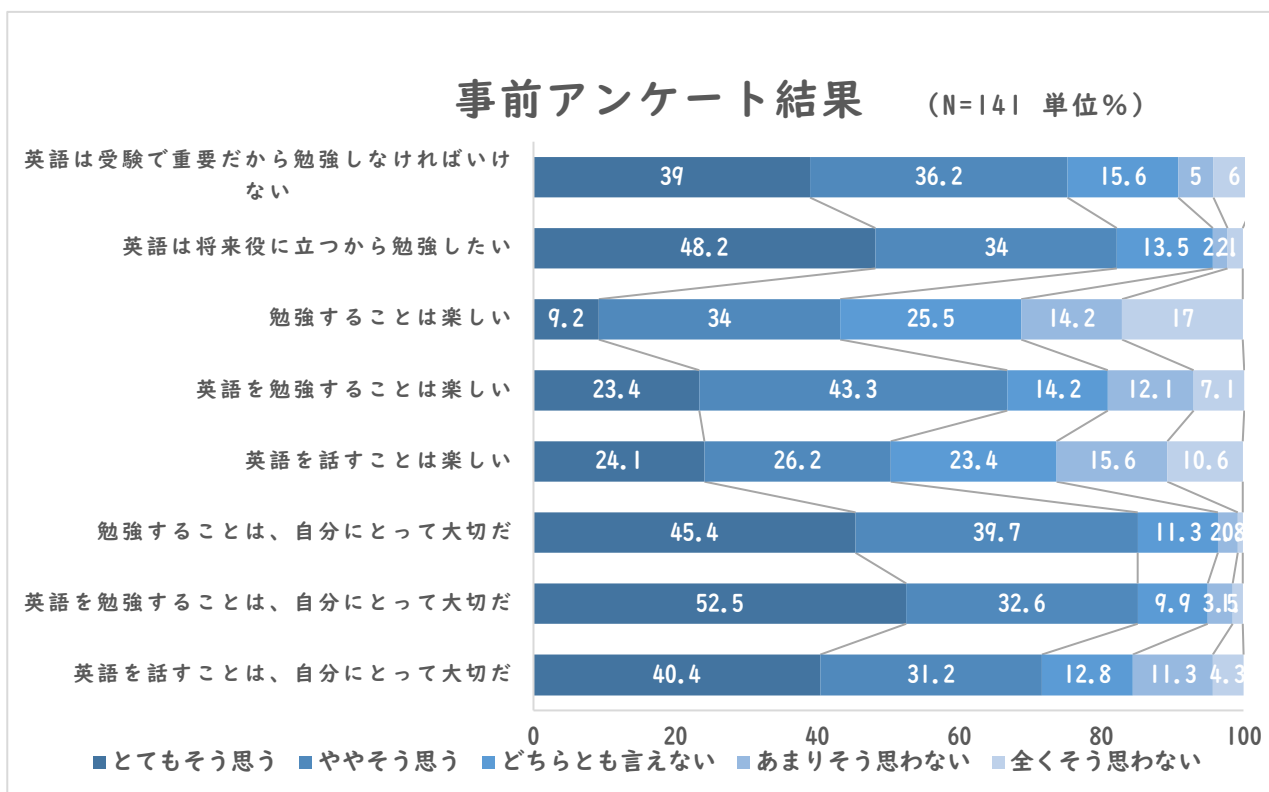
この会話テストでは、多くの生徒がスライドのキーワードを見ながら自己紹介について即興的に話をするのができたが大きく分けて2つの課題が挙げられた。

1つ目は、即興的に質問することだ。自己紹介の内容を聞いた後、挙手をして英語で質問ができた生徒は1クラス10から18名とばらつきがあり、5W1Hを用いて話題を深める質問をすることができた生徒はさらに限られていた。振り返りでは「日本語での質問は思い浮かんでも英語にできなかった」や「話の内容を頭で整理してすぐ質

問をすることができなくて悔しかった。その場で考えて発言できるようになりたい」などの記述が見られた。

本校第一学年生徒を対象に令和6年7月に実施した事前アンケートによると生徒たちは受験に必要な学習として英語を捉えるよりも、将来のために英語を学ぶことを価値あるものとして認識していることがわかる。一方で、英語の学習に対して楽しさを感じている生徒は7割弱にとどまり、英語を話すことを楽しんでいる生徒は約5割に過ぎない。

話すことが楽しくないと感じる理由として、生徒自身が即興的に英語で自分の考えを表現することの難しさが挙げられる。多くの生徒は語彙不足が原因だと考えているが、簡単な語句や文を使って自分の考えを英語で表現できるようにすることで、自己表現の自信を持たせたい。そのため、授業では、「どのように英語で表現すればいいかわからないこと」を生徒から拾い上げ、適切な足場掛けをすることによって、自己表現の成功体験を与える。わからないことは恥ずかしいことではなく、クラス全員で学びにつなげていくものだという体験を積み重ねさせ、英語学習に対する積極的な姿勢を育み、課題に粘り強く取り組む生徒を育てたい。



さらに、質問力を高めるには英語の表現力を高めるだけでは十分でないと考え。今年度、総合的な学習の時間に中学1・3年生のプレゼンテーションを見て質問をする機会が複数あったが、日本語であってもその場で挙手をして質問する生徒は限られていた。原因として「何を質問したらいいかわからない」という理解にかかわる部分と、「先輩のプレゼンテーションに対して自分の質問していいのだろうか」「自分が質問しなくても誰かが質問してくれる」など心理的な抵抗があると考えられる。このような状況に対応するためには、生徒が心理的な抵抗を感じずに質問しやすい環境を整えたり、即興で質問を考えやすくするためのサポートが必要であると考え。本単元のプレゼンテーションでは、3人ずつのグループにわけ、1人がプレゼンター、2人は聴衆として質問をする形を取ることによって、より安心して質問できる環境にした。質問を即興的に考えるための指導法については次章の指導観で述べる。

2つ目の課題は、聞き手に対する文化的な配慮をすることである。“I like *manju*. I like *anko*.” など、日本の食べ物について話し、“What is *anko* like?” と聞かれても、うまく説明できない生徒が見られた。このように、聞き手は誰なのかということを十分に考慮できていないことがわかった。このことは本単元の目標「即興的に話す

力を高めるために、プレゼンテーションで聞いた内容について、自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いて質問したり、答えたりすることができるようにする。」や「世界の町のよさや課題、課題解決のための行動について知り、自分と社会との繋がりについての理解を深めるために、日本との文化的差異に対する理解を深め、聞き手である外国の人に配慮しながら、簡単な語句や文を用いて主体的に話そうとする態度を養う」ことにつながる。

(3) 指導観

本時では、生徒の主体性を高め、即興的な英語のスピーキング能力や聞き手を意識した内容の充実を図る。まず、「何を質問したらいいかわからない」という困り感を解消するために、質問を考える視点を以下のように示す。

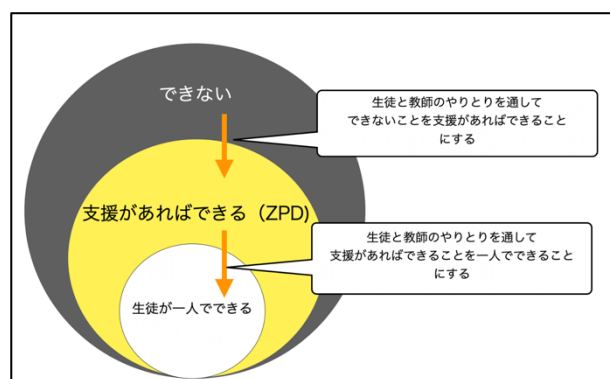
- | |
|--|
| <p>① 基本的な情報確かめる</p> <p>例: What is another famous place in Ikeda?
How many days did you pick up the litter?
Where is the Ikeda Park?</p> <p>② ものごとの意義や理由, 根拠確かめる</p> <p>例: Why did you put up the poster in the Ikeda station?
Why did you choose the park for the action?</p> <p>③ 行動についての自己評価確かめる</p> <p>例: Did the action achieve your goal? Why?
What did you want to change from your action?
What was hard during your action?
What was the best part of your action?</p> |
|--|

*The revised taxonomy by Anderson and Krathwohl (2001). をもとに筆者作成

また、即興的な英語のスピーキング能力を高めるにはために、ダイナミック・アセスメント(DA)の手法を用いる。DAは、ヴィゴツキーの提起した「発達の最近接領域(ZPD)」に基づいた手法であり、生徒がまだできないことを、教師の援助を通じて一人でできる状態に引き上げることを目的とする。国立政策研究所(2022)も、『「指導と評価の一体化」のための学習評価』として、評価そのものにより学習を促したり指導内容の改善を図ったりする形成的評価の充実を求めており、DAはその一環として有効である。

具体的には、生徒が英語でできることを次の三段階に分ける。まず、一人ではまだできないこと、次に援助があればできること、最後に一人でできることである。授業中、教師は生徒と積極的にやり取りを行い、それぞれの生徒のZPDに合わせた適切な援助を即時に提供し、生徒の学びを促進する。この「ダイナミック」な評価手法は、生徒の学習をより効果的に促進するために役立つ。

ZPDに合わせたフィードバックとして、誤り訂正(Corrective Feedback;以下CF)の方法を以下に挙げる。(Ranta & Lyster 2007; Sheen & Ellis 2011 を参考に筆者が作成)



「発達の最近接領域に基づくアプローチ」

Zone of Proximal Development (Vygotsky, 1978)を元に筆者作成

	Implicit(暗示的)	Explicit (明示的)
<p>Reformulation 教師が生徒の誤りを直接訂正し、正しい言い方を示すアプローチ</p>	<p>Conversational recasts 学習者が誤った発言をした際に、教師が自然な会話の中で正しい形に言い直す</p>	<p>Didactic recasts 会話の中で、自然な形で明示的に修正する 例:「〇〇と言った方がいいですよ」</p> <p>Explicit correction 誤りを明確に指摘し、正しい形を明示する 例:「それは間違いで、正しくは〇〇です」</p> <p>Explicit correction with metalinguistic explanation 明示的な訂正を行うと同時に、その誤りに関する文法や言語のルールを説明する 例:「ここでは過去形を使います。なぜなら」</p> <p>Metalinguistic clue 文法や言語のルールに関するヒントを与えて、生徒が自分の誤りを認識し、修正できるようにする 例:「過去形を使う必要がありますね」</p> <p>Elicitation 生徒が正しい表現を自分で導き出させるような質問やヒントを与える 例:「Yesterdayということは?」</p> <p>Paralinguistic signal 言語以外の手段(例えば、表情、ジェスチャー、イントネーション)を使って学習者に誤りを知らせる</p>
<p>Prompts 生徒が自分で誤りを見つけて修正するよう促すアプローチ</p>	<p>Repetition 生徒の誤り部分を教師が繰り返し、その発言を強調することで、学習者に自分の誤りに気付かせる 例:She go?</p> <p>Clarification request 生徒の発話が不明確な場合、教師が「どういう意味ですか?」や「もう一度言ってください」などの質問を通じて、学習者に再度説明させる</p>	

明示的な CF と暗示的な CF の効果については、明示的な CF の方が学習者が気づきやすいことが示されている (Mackey et al. 2007; Nassaji 2009)。また、リキャストよりもプロンプトの方が学習者が気づく可能性が高いとされている (Ammar 2008)。しかし、一部の研究者は、暗示的な CF の方が効果が長続きする可能性があり、明示的な CF は短期的には効果的でも、その効果が持続しにくいかもしれないと考えている (Mackey & Goo 2007, Li 2010)。そこで本時では、生徒一人ひとりの学習状況に応じて、最も効果的な気づきを生み出す

ために,DA に基づいて生徒ができること,できないことをその場で見極める。そして,プロンプトからリキャスト,さらにはリフォーミュレーションまで,柔軟にフィードバック手法を使い分け,生徒の発達に応じた支援を提供する。これにより,生徒が自分自身の学びを深め,長期的に定着する学習効果を目指す。

次に本時の授業とグローバル市民コモン・ルーブリックとの関連について述べる。本時の目標は①疑問詞や時制(主に現在形や過去形)の特徴やきまりを理解し,それらを活用して,日常的な話題(自分の町や行動)について考えたことや,感じたこと,その理由などを英語で即興で伝えあったり,話したりする技能を身に付けるようにする。②即興的に話す力を高めるために,プレゼンテーションで聞いた内容について,自分の考えを整理し,簡単な語句や文を用いて質問したり,答えたりすることができるようにすることである。即興的に話そうと思うと,正確性が落ちてしまうことがよくある。しかし,ここで,間違いは恐れず,自分たちの知っている語彙でどのように表現すればいいのか積極的に意見を出し合ったり,クラスメイトや自分自身の間違いから,学ぼうとしたりすることで,即興的に話す技能や,表現力を身に付けることができると考える。

4.評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>【知識】</p> <p>①疑問詞や動詞の時制(主に現在形や過去形)の特徴やきまりに関する事項を理解している。</p> <p>【技能】</p> <p>①疑問詞や動詞の時制(主に現在形や過去形)の特徴やきまりなどを活用して,日常的な話題(世界の町や学校)に関する英文の内容を聞き取ったり,読み取ったりする技能を身に付けている。</p> <p>②自分の町や行動について考えたことや,感じたこと,その理由などを整理し,動詞の時制(主に現在形や過去形)を用いて伝えたり,相手からの質問に答えたりする技能を身に付けている。</p>	<p>①世界の町のよさや課題,課題解決のための行動について知るために,世界の町について簡単な語句や文で書かれた英文を読んだり,ニュース等の音声を聞いたりして,概要を捉えている。(読むことイ,聞くことイ)</p> <p>②自分と社会との繋がりについての理解を深めるために,自分の町のよさや課題,課題解決のための行動について,事実や自分の考え気持ちなどを整理し,考えたことや感じたこと,その理由などを簡単な語句や文を用いて話している。(話すこと[発表]イ)</p> <p>③即興的に話す力を高めるために,プレゼンテーションで聞いた内容について,自分の考えを整理し,簡単な語句や文を用いて質問したり,答えたりしている。(話すこと[やり取り]イ)</p>	<p>①自分と社会との繋がりについての理解を深めるために,世界の町のよさや課題,課題解決のための行動についてどんな例があるのかを整理し,日本との文化的差異に対する理解を深め,聞き手である外国の人に配慮しながら,簡単な語句や文を用いて伝えようとしていたり,相手からの質問に主体的に答えようとしている。</p>

5. 単元指導計画(全 22 時間)

時間	学習内容 ねらい(■),言語活動等(丸数字)	主な評価規準	評価の観点			評価方法
			知技	思考	態度	
I	<p>■探究テーマを通して単元の目標を理解する。</p> <p>■重要概念 “Connection” について考える。</p> <p>① OPPシートの単元前の項目に答えることで,重要概念や探究の問いについての単元前の考えをまとめたり,生徒自身の ATL skill について把握したりする。</p> <p>② 探究の問い What are your town's strengths? What are its problems? What actions can you take to help solve them? に答えるための語彙を学習し,簡単な英語で表現する</p>	<p>①世界の町のよさや課題,課題解決のための行動について知り,自分と社会との繋がりについての理解を深めるために,日本との文化的差異に対する理解を深め,聞き手である外国の人に配慮しながら,簡単な語句や文を用いて主体的に話そうとしている。</p>			●	OPPシート
2-7	<p>■<i>New Crown</i> / Lesson 4 My Family, My Hometown を読んだり聞いたりして,概要を把握し,考えたことや感じたことを伝え合う。</p> <p>① 3人称単数現在形の特徴やきまりを理解する。</p> <p>② 本文を読んでもっとも伝えたいこと(要点)を捉える。</p> <p>③ 教科書本文の音読練習をする。</p> <p>④ Londonの町に関する説明文を読み,文章の構成や,読み手にわかりやすく工夫されている箇所を分析する</p>	<p>3人称単数現在形を聞き取る技能や,書かれた内容を読み取る技能を身につけている。</p> <p>世界の町のよさや課題,課題解決のための行動について知るために,世界の町や学校について書かれた英文を読んだり,ニュース等の音声</p>	●	●		観察 ワークシート OPPシート

	<p>⑤ 本文に出てきた表現を使って、自分の住む町の簡単な紹介文を5行程度で話す</p> <p>⑥ 探究の問い How can you build a meaningful connection with your community?に答える</p>	<p>を聞いたりして、概要を捉えている。</p> <p>即興的に話す力を高めるために、読んだ内容について、自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いて質問したり、答えたりしている。</p>				
8-13	<p>■ <i>New Crown</i> / Lesson 6 Discover Japan を読んだり聞いたりして、概要を把握し、考えたことや感じたことを伝え合う</p> <p>① 過去形・疑問詞の特徴やきまりを理解する。</p> <p>② 本文を読んでもっとも伝えたいこと(要点)を捉える。</p> <p>③ 教科書本文の音読練習をする。</p> <p>④ 日本の祭りや食べ物などをどのように説明すれば、外国の人に伝わりやすいのか本文から分析する。</p> <p>⑤ 本文の内容について英語で質問をする。</p> <p>⑥ 探究の問い How can you choose words carefully for the audience by connecting your knowledge?に答える</p>	<p>動詞の時制(主に現在形や過去形)の特徴やきまりを理解し、それらを活用して、日常的话题(世界の町や学校)に関する英文の内容を聞き取ったり、読み取ったりする技能を身につけている。</p> <p>世界の町のよさや課題、課題解決のための行動について知るために、世界の町や学校について書かれた英文を読んだり、ニュース等の音声を聞いたりして、概要を捉えている。</p> <p>世界の町のよさや課題、課題解決のための行動について知り、自分と社会との繋がりについての理解を深めるために、日本との文化的差異に対する理解を深め、聞き手である外国の人に配慮しながら、簡単な語句や文を用いて主体的に話そうとしている。</p>	●	●	●	<p>観察 ワークシート OPPシート</p>

14-15	<p>■ 自分の町のよさや課題,課題解決のための行動について,プレゼンテーションの内容を考える。</p> <p>① 日本語のプレゼンテーションと英語のプレゼンテーションの構成の違いについて知る。</p> <p>② プレゼンテーションの準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの内容をマッピングする。 ・マッピングをもとに即興的に話す練習をする。なかだ 	<p>世界の町のよさや課題,課題解決のための行動について知り,自分と社会との繋がりについての理解を深めるために,日本との文化的差異に対する理解を深め,聞き手である外国の人に配慮しながら,簡単な語句や文を用いて主体的に話そうとしている。</p>			●	<p>ダイナミック アセスメント Peer feedback OPPシート</p>
16 【本時】	<p>■ 質疑応答の練習をする。</p> <p>① プレゼンテーションの内容を踏まえた質疑応答の練習をする。</p>	<p>即興的に話す力を高めるために,プレゼンテーションで聞いた内容について,自分の考えを整理し,簡単な語句や文を用いて質問したり,答えたりしている。</p> <p>即興的に話す力を高めるために,プレゼンテーションで聞いた内容について,自分の考えを整理し,簡単な語句や文を用いて質問したり,答えたりしようとしている。</p>		●	●	<p>ダイナミック アセスメント OPPシート</p>
17,18	<p>■ プレゼンテーションのスライド作成および,より効果的に伝える練習をする。</p> <p>① マッピングの内容にあったスライドを作成する。</p> <p>② どこを強調して言えば相手に伝わるのかを練習する。</p>	<p>自分と社会との繋がりについての理解を深めるために,自分の町のよさや課題,課題解決のための行動について,事実や自分の考え気持ちなどを整理し,考えたことや感じたこと,その理由などを簡単な語句や文を用いて話している。</p>			●	<p>ダイナミック アセスメント OPPシート</p>
19-21	<p>■ プレゼンテーション,質疑応答をする</p> <p>① 3人ずつのグループにわけ,プレゼンテーションをする。</p>	<p>動詞の時制(主に現在形や過去形)の特徴やきまりを理解し,それらを活用して,日常的な話題(自分の町や行</p>	○	○		<p>パフォーマンス 評価</p>

	1人がプレゼンター,2人は聴衆としてプレゼンテーション後に質問をする	動)について考えたことや,感じたこと,その理由などを英語で即興で伝えあったり,話したりする技能を身に付けている。 即興的に話す力を高めるために,プレゼンテーションで聞いた内容について,自分の考えを整理し,簡単な語句や文を用いて質問したり,答えたりしている。				
22	■単元の振り返りをする。 ① OPPシートの単元後の項目に答えることで,重要概念や探究の問いについての単元前,単元中,単元後の変化をまとめたり,生徒自身のATL skillsの伸長について把握したりする。	単元を通した自身の変化をまとめることを通して,重要概念“connection”に対する考えがどう変わったかやATL skillsの伸長について把握しようとしている。			○	振り返りシート

●…形成的評価(指導に活かす評価) ○…総括的評価(記録に残す評価)

6. 本時の展開

(1) 本時の目標

- 即興的に話す力を高めるために,プレゼンテーションで聞いた内容について,自分の考えを整理し,簡単な語句や文を用いて質問したり,答えたりすることができるようにする。(思考力,判断力,表現力等に関して)
- 即興的に話す力を高めるために,プレゼンテーションで聞いた内容について,自分の考えを整理し,簡単な語句や文を用いて質問したり,答えたりしようとする態度を養う。(学びに向かう力,人間性等に関して)

(2) 本時の評価規準

- 即興的に話す力を高めるために,プレゼンテーションで聞いた内容について,自分の考えを整理し,簡単な語句や文を用いて質問したり,答えたりしている。(思考・判断・表現)
- 即興的に話す力を高めるために,プレゼンテーションで聞いた内容について,自分の考えを整理し,簡単な語句や文を用いて質問したり,答えたりしようとしている。(主体的に取り組む態度)

(3) 本時の学習とグローバル市民共通・ルーブリックとの関連

① 項目

主体的な人

② 内容

これまでの経験や学んだこと,試みの視点などから目標を持ち,その達成に向けて自主的に粘り強く取り組むことができる。

(4) 展開

学習過程	学習活動および内容	指導上の留意点	評価の観点・方法
導入 8分	<ul style="list-style-type: none"> ・Greeting / Small talk ・本時の流れ・目標の確認 ・Warm-Up Picture Description 絵を見て簡単な英語で描写する 絵に関する質問をする 全体→ペア→全体 	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪のニュースやローカルな話題を英語で話し、生徒と英語でやり取りする ・本時の流れ、目標を提示し、生徒の役割を確認する。 What did he/she do yesterday? What can you see in this picture? Where did he/she work? などいろいろな疑問詞や時制を交えて質問をする 	
展開 32分	<ul style="list-style-type: none"> ・教師によるプレゼンテーションを聞く ・ペアでどのような質問をするか考える You said, (). 質問 ・質問をロイロノートに書き込み全体で共有する。 ・マッピングをもとに、自分の町とその町について自分がしたことをパートナーに発表したり、質問をしたりする。 ・質問をもとにマッピングの内容を書き加える。 ・代表者がプレゼンテーションをする。他の生徒はそのプレゼンテーションに質問をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・質問を考える視点を示す。 ・英語で表現できない場合は日本語で質問しても良いこととし、その場合は教師のサポートのもとクラス全員で質問内容を考える ・ダイナミックアセスメントに基づいた間違い訂正を行う ・机間巡視をし、生徒のつまずきに気づき、全体へのフィードバックを行う ・英語で表現できない場合は日本語で質問しても良いこととし、その場合は教師のサポートのもとクラス全員で質問内容を考える 	ダイナミックアセスメント
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・OPP シート記入 (5分) 		・OPP シート

(5) 準備物

- ・ Chromebook ・ 電子黒板

7. 参考文献

1. Ammar, A. (2008). Prompts and recasts: Differential effects on second language morphosyntax. *Language Teaching Research*, 12(2), 183–210.
2. Anderson, L. W., Krathwohl, D. R. (2001). A taxonomy for learning, teaching, and assessing: A Revision of Bloom's Taxonomy of Educational Objectives. New York: Longman.
3. Deci, E. L., & Ryan, R. M. (Eds.). (2002). *Handbook of self-determination research*. University of Rochester Press.
4. Eikenberry, K. (2004). Effective listening: Better relationships and improved results. In M. Silberman (Ed.), *The best of active training*. San Francisco: Pfeiffer.
5. Li, S. (2010). The effectiveness of corrective feedback in SLA: A meta-analysis. *Language Learning*, 60(2), 309–365.
6. Lyster, R., & Saito, K. (2010). Oral feedback in classroom SLA: A meta-analysis. *Studies in Second Language Acquisition*, 32(2), 265–302.
7. Lyster, R., Saito, K., & Sato, M. (2013). Oral corrective feedback in second language classrooms. *Language Teaching*, 46(1), 1–40. <https://doi.org/10.1017/S0261444812000365>
8. Mackey, A., Al-Khalil, M., Atanassova, G., Hama, M., Logan-Terry, A., & Nakatsukasa, K. (2007). Teachers' intentions and learners' perceptions about corrective feedback in the L2 classroom. *Innovation in Language Learning and Teaching*, 1(1), 129–152.
9. Mackey, A., & Goo, J. (2007). Interaction research in SLA: A meta-analysis and research synthesis. In A. Mackey (Ed.), *Interaction in second language learning* (pp. 407–452).
10. Nassaji, H. (2009). Effects of recasts and elicitations in dyadic interaction and the role of feedback explicitness. *Language Learning*, 59(2), 411–452.
11. Ranta, L., & Lyster, R. (2007). A cognitive approach to improving immersion students' oral language abilities: The Awareness–Practice–Feedback sequence. In R. DeKeyser (Ed.), *Practice in a second language: Perspectives from applied linguistics and cognitive psychology* (pp. 141–160). Cambridge University Press.
12. Sheen, Y., & Ellis, R. (2011). Corrective feedback in language teaching. In E. Hinkel (Ed.), *Handbook of research in second language teaching and learning, Vol. 2* (pp. 593–610). Routledge.

13. Vygotsky, L. S. (1978). *Mind in society: The development of higher psychological processes*. Harvard University Press.
14. 堀哲夫監修・中島雅子編著. (2022). 一枚ポートフォリオ評価論 OPPIA でつくる授業. 東洋館出版社.
15. 溝上慎一. (2017). (理論) 主体的な学習とは—そもそも論から「主体的・対話的で深い学び」まで. Retrieved August 30, 2024, from <http://smizok.net/education/subpages/a00019%28agentic%29.html>
16. 文部科学省. (平成 29 年告示). 中学校学習指導要領 外国語 解説編.
17. 文部科学省. (令和 2 年 3 月). 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 外国語科.

8.参考資料 池田地区「グローバル市民」コモンルーブリック

項目	高等学校	中学校	小学校	
			高学年	低学年
主体的な人	これまでの経験や学んだこと, 新たな試みの視点 などから目標を持ち, その達成に向けて 自主的に粘り強く, 創造的に 取り組むことができる。	これまでの経験や学んだこと, 試みの視点 などから目標を持ち, その達成に向けて 自主的に粘り強く 取り組むことができる。	これまでの経験や学んだこと, 試みの視点 などから目標を持ち, その達成に向けて 自主的に 取り組むことができる。	これまでの経験や学んだことから 目標 を持ち, その達成に向けて 進んで 取り組むことができる。
つなぐ力のある人	これまでの経験や知識を関連づけて 創造的に 物事を考え, 周りの人たちや異なる文化圏の人たちとの協働を構想・実践 することができる。	これまでの経験や知識を関連づけて物事を考え, 地域社会 の人たちとの 協働を構想・実践 することができる。	これまでの経験や知識を関連づけて物事を考え, 学校 の人たちと 協力して 取り組むことができる。	これまでの経験や知識をもとに物事を考え, 学級 の人たちと 力を合わせて 取り組むことができる。
探究力のある人	自らの問題として, 身近なコミュニティや世界の出来事 から課題を見出し, その解決に向けて取り組み, 振り返りながら, 創造的に 追究することができる。	自らの問題として, 身近なコミュニティ から課題を見出し, その解決に向けて取り組み, 振り返りながら 追究することができる。	自らの問題として, 身の回り から課題を見出し, その解決に向けて取り組み, 振り返り することができる。	自らの問題として, 身の回り の課題に気づき, その解決に向けて取り組むことができる。
寛容な人	他者の意見や考え方に対して 共感と傾聴 の姿勢で接し, 多様性を尊重しながら相互理解 を深めることができる。	他者の意見や考えに対して 共感 の姿勢で接し, 多様性を受け入れ相互理解 を進めることができる。	他者の意見や考えに対して 共感の姿勢 で接し, 相互理解 を進めることができる。	他者の意見や考えに対して 共感の姿勢 で接することができる。